

筑紫野の

きゅう せつ き し だい

旧石器時代

旧石器時代とは人類が「ヒト」への道筋を辿り始めた時から、数百万年をかけて、遊動住、狩猟、採集という生活を抜け出すまでの人類史上もっとも長い時代を指しています。年代はさまざまな見解がありますが、最近の研究では約400万年前から約1万年前までの期間となります。

福岡県で最初に旧石器時代遺跡の調査が行われたのが筑紫野市であることはあまり知られていません。それは1970年の野黒坂遺跡（針摺）、峠山遺跡（針摺）の発掘調査です。旧石器時代後期の多くの石器が発掘されました。石器にはやや古いものと新ものがあり、1～2万年前のものです。古いものには投げ槍の先につける尖頭器や台形様石器、肉や皮を切るナイフなどがあり、新しいものには投げ槍の先に埋め込んで使う細石器という小さな刃先があります。これらの石器から、かつ

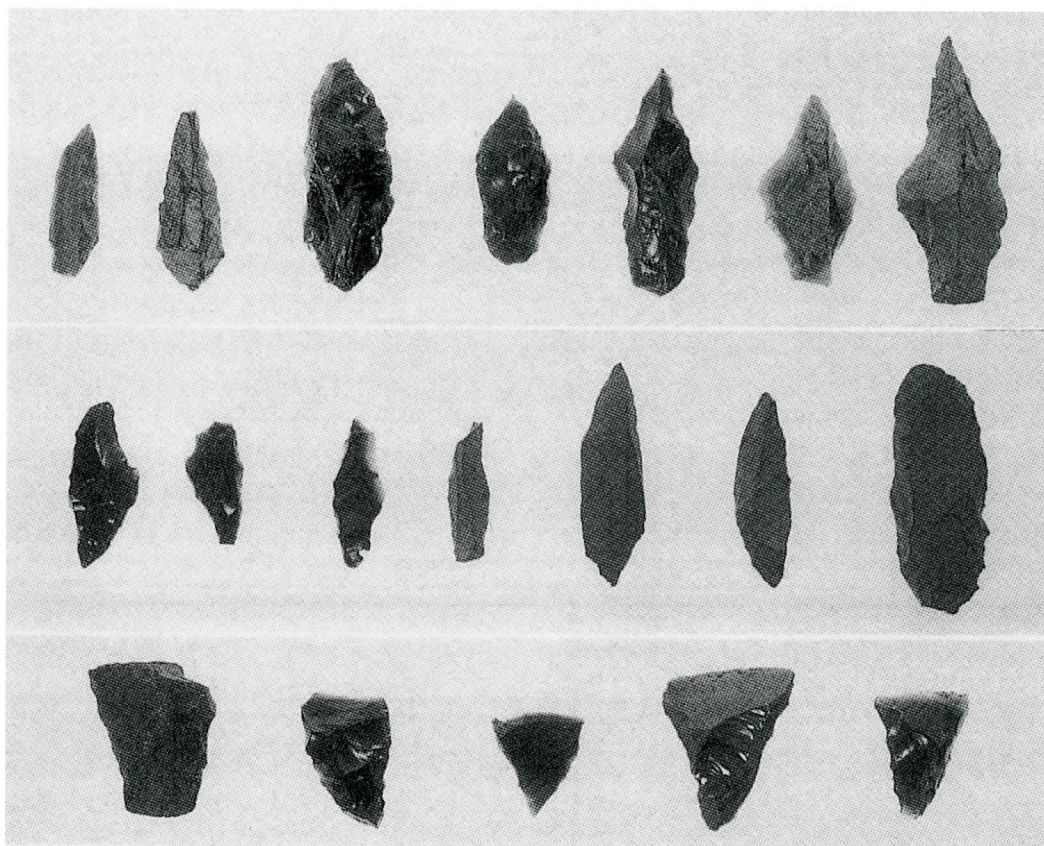
て旧石器時代人が付近にキャンプを設け、しばらく狩猟を行っていたとみられます。市内にはこうしたキャンプ跡とみられる遺跡が萩原遺跡（萩原）を始め数多く見つかっています。その中で御笠地区（御笠地区遺跡E地点）や山家地区（中島遺跡）の圃場整備や原田地区（原田地区遺跡）の区画整理などの際には、事業に先立って発掘調査が行われました。

福岡県内では筑紫野市から甘木市にかけての丘陵地帯にたくさんの旧石器時代遺跡があり、重要な地域として旧石器時代の研究上注目を集めています。

日本の旧石器時代遺跡、遺物の探求のうえでたいへん残念なことがあります。それは石器や遺跡はたくさん見つかるのですが、それを残した人達の人骨が見つからないことです。人骨が見つければ、どこから日本にやってきた人か、どんな体型、生活をしていたのかを



▲山家 中島遺跡



▲上段 尖頭器（野黒坂遺跡） 中段 ナイフ形石器（峠山遺跡） 下段 台形様石器（峠山遺跡）

解く鍵となります。日本は代表的な火山国です。私達の暮らす九州でも桜島、阿蘇、普賢岳などは現在でも煙を上げていますが、旧石器時代にはもっと多くの火山が噴火し、地面を幾重にも覆い隠しました。これらの火山から噴出した火山灰や火砕流は極めて酸性が強く、人骨など有機質のものは跡形もなく溶かしてしまいます。これまで日本で発見された旧石器時代の化石人骨は酸性の低い石灰岩地帯からほんの僅かが見つかっているだけです。日本の旧石器時代の遺跡からは、通常石器しか出てきません。それでもこの石器を通じて旧石器時代社会の復元をすすめる試みが行われています。

石器から分かることは主に狩猟活動に関わることです。まず、使われた材料が問題とな

ります。多くの石器は割れ口が鋭利となる黒耀石くようせきやサヌカイトなどを用いています。筑紫野市一帯ではこれらの石は産出しないので遠方より何らかの手段で入手しなければなりません。また石器の作り方は技術や機能を通じて交流、移動などを追求する手がかりとなります。さらに石器に残された傷や使用した痕跡からは当時の生活内容の一端を知ることができるわけです。

また、遺跡に残された石器の量や種類から集落の大きさや最小単位の家族、狩猟に伴う集団の移動や離散集合の推定も行われています。それらを通じて互助、通婚、資材供給など日本列島の旧石器時代の集団関係と社会の様子を伺うことも不可能ではありません。

（吉留秀敏）